

Annual Report 2023.4 - 2024.3



顔の見える関係づくりから
はじまる、はじめる

地域の「しあわせ」を考え・行動する

地域の「しあわせ」を考え、行動する 「あいだの人」として、これからも…

Vision 身近な暮らしのなかで 個々が「しあわせ」を感じ、共に生きる社会

刻々と変化する社会にあって、私たちは多様な社会問題に直面しています。
それでも、ひとり一人が生きること喜びを感じ、共に生きること、更に生きがいを感じる社会を創りたい。
私たちは専門性を持った「あいだの人（中間支援チーム）」となり、笑顔を増やしつつ、一つでも多くの社会問題を
解決していくための挑戦をしていきます。

Mission 「あいだの人になる」

人と人の「あいだ」。人と組織の「あいだ」。市民と行政の「あいだ」。市民と福祉サービスの「あいだ」。
過去から未来の「あいだ」。バラバラに解決されようとする社会問題の「あいだ」。
そのスタンスに立ち、協働を促すチャンスを探ります。

Stance 「対話」×「創意工夫」×「行動」

- 1 今を知るために調査・研究に取り組みます
- 2 丁寧に関係を築き、質の高いネットワーキングを構築します
- 3 多様な地域の特徴を知り、客観的な分析と提案をします
- 4 観察力を持ち、企画・行動へのプロセスを実践します
- 5 真の対話を怠らず、創意工夫から新しい方策を模索し続けます



CONTENTS

- | | | |
|--|---|-------------------------------|
| 2 理念 | 10 子ども・若者の育ちと自立を支える人材育成セミナー | 18 横浜市地域包括支援センター職員研修 |
| 3 この1年の取組み 2023.4-2024.3 | 11 障害児者の保護者のための交流事業
「キャンディーブーケ」 | 19 横浜市専門職階層別研修に係る業務委託 |
| 4 ご挨拶 理事長・センター長 | 12 共に生きる社会づくりのためのオンライン講座 | 20 福祉サービス第三者評価・
指定管理者第三者評価 |
| 5 理事からメッセージ | 14 職員育成を主軸とした法人コンサルティング事業 | 22 2023 年度会計報告 |
| 6 地域の「しあわせ」を考え、
行動する「あいだの人」として、これから | 16 第4期港南区地域福祉保健計画中間振り返りに
係るコンサルティング | 23 団体概要 |
| 8 困難を抱え孤立する
子ども・若者の社会的自立支援事業 | 17 横浜市健康福祉局委託事業
「ポジティブマインドで ICT 活用を」 | |

2023.4 - 2024.3

この1年の取組み

障害児者と家族の地域での自立生活を考える

3年目を迎えた「共に生きる社会づくりのためのオンライン講座」はさまざまな立場や地域を超えて、語り合い、その対話の中から多くのつながりが生まれています。
「キャンディーブーケ」では、家族のギャラリーとして写真展を開催。地域で生きていく LOVE 溢れる家族の姿が詰まっています。



地域福祉保健計画をみんなのものに！ (委託事業)

横浜市ではすべての区で5年ごとに独自の福祉保健計画を策定しており、2023年度は第4期の中間振り返り年となります。港南区地域福祉保健計画コンサルティングの委託を受け、計画の周知や理解、具体的な取組についてさまざまな住民と共に振り返りを行い、それをリーフレットにまとめました。



ソーシャルワーク力を磨く！人材育成研修 (委託事業)

社会の変化の中で、福祉的課題は、多様化、複合化し、それを支援する専門職には、多くの知識やスキル、ソーシャルワーク力が必要となります。「地域共生社会」の実現に向けての人材育成として、横浜市包括支援センター職員研修、横浜市福祉職職員階層別職員研修を受託し実施しました。



子ども・若者の育ちと自立を考える

昨年度に引き続き、休眠預金活用事業（JANPIA）として、5つの実行団体への伴走支援をととして、子ども・若者の自立とは何か、さまざまな出会いと体験がどのような変化をもたらすのかを調査研究しています。また3年目となる「子ども・若者の育ちと自立を支えるセミナー」でのキーワードは、「doing（ありのままを受け入れる）」そして「対話」。市民、専門職ともに、対話をととした出会いの場になりました。



地域と共に歩む社会福祉法人として (コンサルティング事業)

昨年に引き続き、2つの障害法人、社会福祉法人素心会、社会福祉法人横浜愛育会の職員育成を軸としたコンサルティング事業をおこなっています。変化していく制度や環境の中、それぞれの個性を引き出しつつ、利用者、家族、地域にどう向き合っていくのか伴走しています。



福祉現場で活かす ICT (地域ケアプラザ等職員向け ICT 利活用研修委託)

コロナ禍を経て、急速に普及した ICT。地域ケアプラザ等の相談や自主事業などの現場でも ICT の利活用を有効に進めるための、職員向け動画配信研修を企画、実施しました。



福祉サービス第三者評価

2023年度は、保育園、高齢・障害施設など36件の事業所からの依頼を受け、福祉サービス第三者評価事業を実施しました。調査員向けの研修も開催し、個々のスキルアップを図りました。



「あいだ」にこだわり続けて

2012年に活動を開始した当センターは、今年で12年目を迎えました。人間でいえば「ひとまわり（十二支の一巡）」が過ぎ、年男・年女として次の「ひとまわり」を考えていく時期を迎えたわけで、つくづく月日の早さを実感しているところでございます。

この間、毎年事業開始の際には予算や業務の役割分担など、様々な検討事項に頭を悩ませ、それでも新たな仕事への挑戦に胸を膨らませて事業に取り組んでまいりました。私たちのような小さな中間支援団体の運営においては、強固な財政基盤があるわけもなく、その中心課題にはいつも運営経費のことと人材確保が取り上げられてきたように思います。これは私どもの組織だけでなく、同じような組織に共通して言えることでしょう。しかしながらこうした状況にありながら、この12年間私たちが何とか自分たちのミッションの遂行を掲げ事業を展開してこれたのは、これまで多くの人や施設・団体の方々に出会い、また支えられ、活動実践を通じてたくさんの関係を創ることができたからではないかと改めて感じております。特にここ数年、新たなパートナーとしてお仕事のお誘いを受ける機会も増えており、これまでのこうした皆さんの関係によって、今の私たちが事業を続けていけることに感謝申し上げる次第です。

私たちはこれまで調査研究活動を軸に、常に「あいだ」ということにこだわりを持ち続け、人や組織とつながる、つながり続けるための環境をつくることを目指して実践を行ってきました。新型コロナウイルスの影響も含め、この12年間で私たちの生活様式も大きく変化いたしました。地域社会で起こっている生活問題もより多様化・複雑化し、ますます見えにくくなっていると実感しています。そしてこんな時代だからこそ、関係づくりの必要性を、「あいだの人」として、皆さんに伝えていきたい。私たちセンターは、次のひとまわりに向けて、「あいだの人」としての活動を続けてまいりたいと考えています。

経験から学び 成長する組織として

長い間仕事をするなかで、沢山の経験をしました。
はじめての仕事、高いクオリティが要求される仕事、タイトなスケジュールでやり遂げなければならない仕事、これまでと異なる観方が必要な仕事等々、それまでの自分を否応なしに引き伸ばさざるを得ない、課題がある仕事の経験によって、職業人として必要な力を与えられ、仕事を開拓していく意欲も持ち続けられたと感じています。もちろん、失敗も幾度もあります…。
よこはま地域福祉研究センターも、職員皆が、経験から学び、成長する組織でありたいと思っています。設立当初から比較すると、仕事の量も内容も倍近く拡大しています。決して単独の職員ではできない仕事です。今日を迎えられたのは、好奇心を持ち、リスクにも挑戦し、困難を乗り越えて、仕事をする職員に恵まれ、彼らが、困難にぶつかっても、やりきる実行力や、他者の意見に耳を傾けて、自分なりの考え方を引き出そうとする姿勢を持っているからだと思います。

私たちのミッションは「あいだの人」。「あいだの人」として仕事をするには、何のために仕事をするのか？いつも問うていなくてはなりません。「自分のために働く」「他人のために働く」に分けるとするならば、「あいだの人」は、この2つのバランスを良好にとる必要があります。

自分のことを考えると同時に、顧客・同僚・社会の様々な人など、他者の事も考えながら仕事をする時、その経験から多くの事を学ぶことができます。そして、自己の視点と他者の視点のバランスをとることができたなら、「あいだの人」として、どのようなアプローチをすべきか見出し、実現に繋がります。既に、いろいろな課題がありつつも、皆、それぞれの仕事のフィールドで「切磋琢磨」しています。時に、自分をアピールしつつ、他者から学ぼうとします。

さて、新しい年度が始まります。また、良い出会いと経験が待っていると思っています。



理事長
豊田 宗裕

PROFILE

1960年生まれ。明治学院大学大学院修了後、1985年社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会入職。その後、日本総合研究所、横浜国際福祉専門学校、星槎大学等を経て、現在、聖徳大学心理・福祉学部社会福祉学科教授として教鞭につく。専門は地域福祉、コミュニティワーク、福祉行政論など。神奈川県共同募金会評議員／茅ヶ崎市総合計画審議会委員／横浜市社協ウィリング研修委員会委員／神奈川区、栄区地域福祉計画推進委員会委員



センター長・副理事長
佐塚 玲子

PROFILE

慶応義塾大学卒 神奈川県立保健福祉大学大学院修了
横浜市地域ケアプラザ職員・認定NPO法人市民セクターよこはまの勤務経験から地域福祉への関心を深める。2012年NPO法人よこはま地域福祉研究センターを故 泉一弘氏と設立。以来センター長・副理事長を兼任。相模女子大非常勤講師・神奈川県社会福祉審議会委員・神奈川県地域福祉支援計画評価・推進等委員

理事からのメッセージ



相模女子大学人間社会学部 准教授
松崎 吉之助

対話の場から生まれる「問い」を大切に

私は普段は大学で社会福祉関係の授業を担当しています。福祉を専門に学ぶ学科ではないので、受講している学生も様々です。福祉の専門職を目指している学生もいれば、専門職を目指しているわけではないけれど福祉に関心がある学生、そこまで関心がない学生といった具合に非常にバラエティに富んでいます。最初は専門職志望や、福祉に対する関心が高い学生のみで授業を行った方が、より専門性の高い話ができてよいのではないかと考えていました。しかし、様々な学生がいることで、意見やアイデアの幅が広がり、学生自身そして私自身の学びも深まることがだんだんわかってきました。

私たちの身の回りの社会も様々な立場の人がいます。福祉に様々な形でかかわっている人、いつか福祉に関わりたいたいと考えている人、あまり関心を持っていない人など福祉の関心の度合いは人それぞれです。しかし私たちの日々の生活の中にある幸せそのものを考えていく福祉の特徴を考えれば、一部の限られた人だけで考えるのではなく、様々な立場の人と一緒に考えていくことがとても大切だと思います。そのためにはともに考える「場」が必要なのはもちろんですが、知識が豊富である人や、専門性が高い人だけしか考えることができない「問い」ではなく、様々な立場の人が自由に意見を述べ、ともに考えることができる「問い」をたてることがとても重要なのではないかと思います。私は自分が担当している授業を通じてそのようなことを考えるようになりました。

あらためてセンターのこれまで手掛けてきた研修や取り組みを見ると、この「問い」をとても大切にしてきたことがよくわかります。そして、その「問い」を立てることができるのは、センターが日ごろから様々な立場の人と対話を行っているからこそだと思います。これからもセンターの活動を通して、多くの皆さんと「問い」を共有し『身近な暮らしのなかで個々が「しあわせ」を感じ、共に生きる社会』の実現に向けて取り組んでいきたいとおもいます。



横浜市富岡東地域ケアプラザ
地域活動交流コーディネーター
NPO法人まち×学生プロジェクトplus 常務理事
原島 隆行

今だからこそ求められる「あいだの人」

日頃、横浜市の地域ケアプラザ職員として、地域福祉を推進するため、地域に暮らす方々をはじめ、社会資源との関係を築き、地域福祉を推進する仕事をしております。

思いかえすと、この一年は「コロナ禍」からの「脱却・再興」の年だったように感じます。マスクなしでのコミュニケーションの再開、感染症法分類の変更に伴い、地域活動、学生活動なども再開し社会全体が活気付いてくるとコロナ以前の社会に戻ったような錯覚さえ覚えます。

しかし、地域活動の現場では「対面コミュニケーションの経験不足」「担い手の引退」「デジタル化」「関係性の分断」などコロナ禍を経て多くのものが変化していることに気づかされました。なかでも「担い手不足」「関係性の分断」は、より深刻な問題となり「活動を再開したいが活動の理解者がいない」「協力者をえたいが繋がらない」など、活動を再開したからこそ表面化した課題も山積みです。

そんな今だからこそ求められているのは「あいだの人」と確信しています。

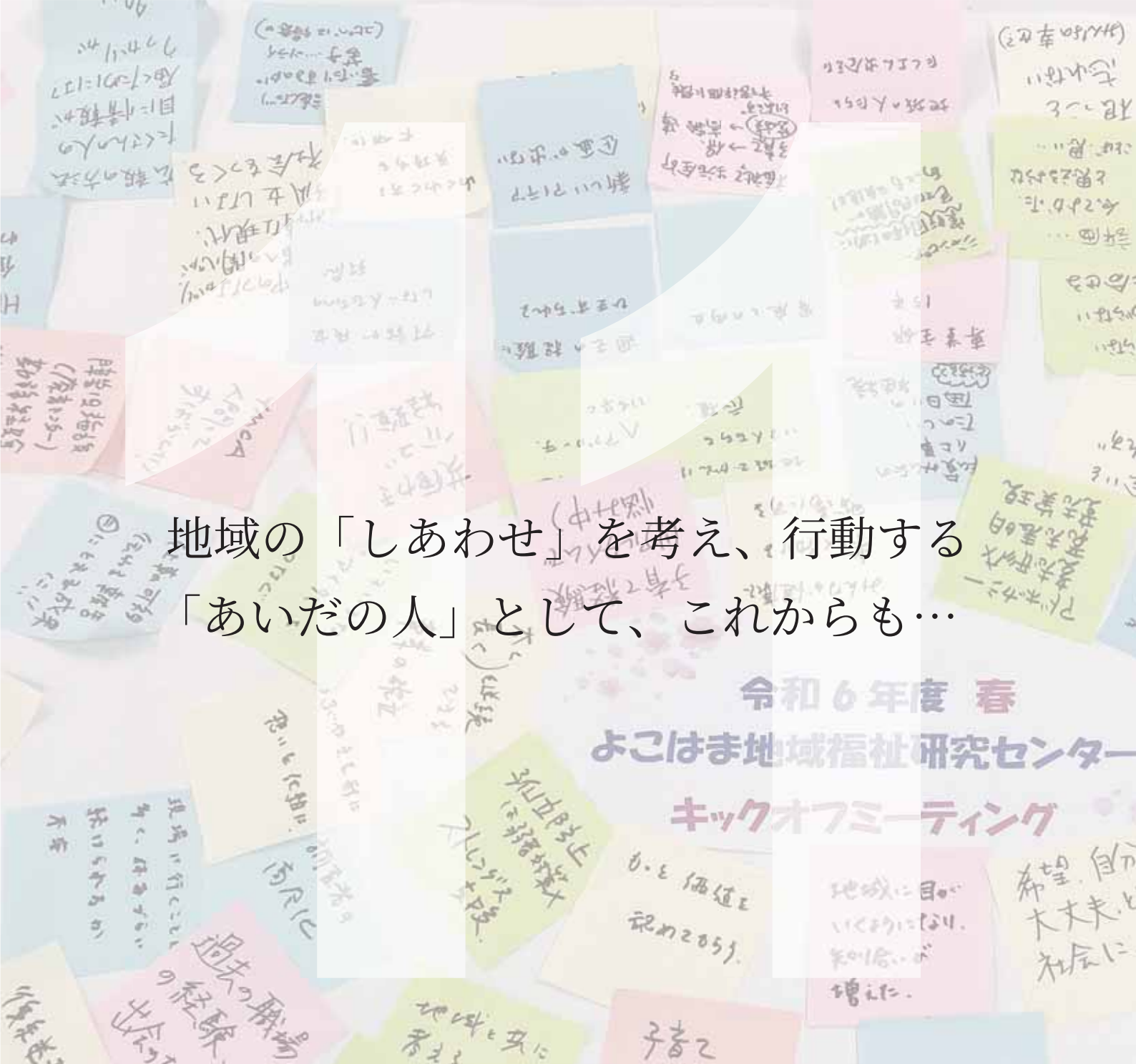
「関係性の分断」により組織同士の“あいだ”・世代の“あいだ”・制度の“あいだ”、様々な“あいだ”を埋める〈繋がり・お互いの気持ちを想いを翻訳できる〉まさに「あいだの人」の役割が求められていると日々感じています。

2024年度は、よこはま地域福祉研究センターの事業に、少しずつ関わりを持つことになりました。これまで自分が向き合ってきた人や地域とのつながりや信頼を育てる中で、新たな福祉を生み出してきた経験を活かせたらと思っています。

そして、地域福祉研究センターが11年かけて培ってきた「あいだの人」の一人として更に、多くの人や地域に出会えることを楽しみにしています。

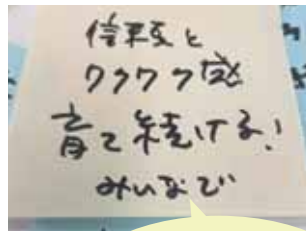
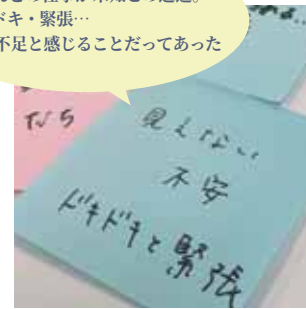
今後も多くの方との出会いと対話を通じて、小さな声を拾い身近な暮らしの中で「しあわせ」を感じられる社会の実現に向け挑戦していききたいと思っています。

今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

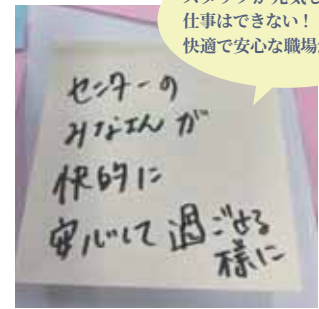


地域の「しあわせ」を考え、行動する 「あいだの人」として、これからも…

ほとんどの仕事が未知との遭遇。
ドキドキ・緊張…
勉強不足と感じることだってあった

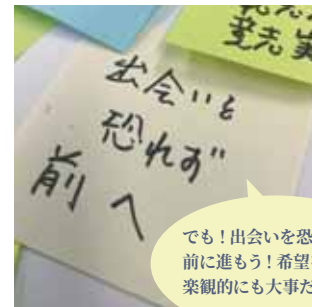
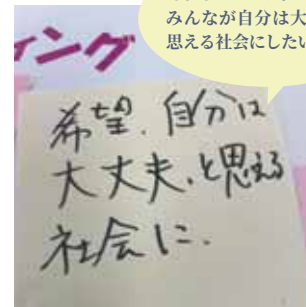


どんな仕事もそうだった…。
スタッフ間でも、クライアントとも、
様々な誰かとの信頼関係
育てなくちゃ！
でも、ワクワクも必要！

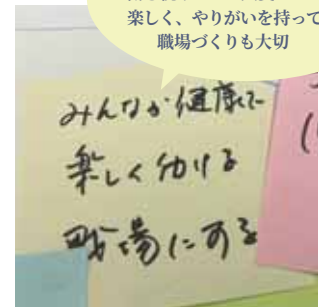


スタッフが元気じゃないと
仕事はできない！
快適で安心な職場が大切

そうなんだよね。
みんなが自分は大丈夫って
思える社会にしたいよね。

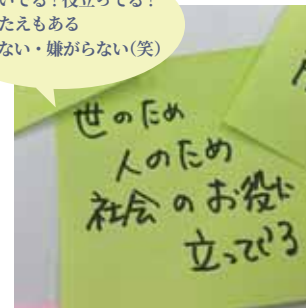


でも！出会いを恐れず、
前に進もう！希望を持って、
楽観的にも大事だね

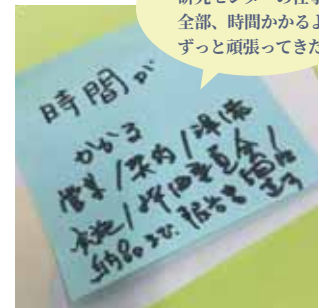
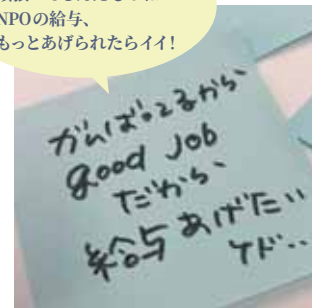


子育て中、介護中、自分の健康、
働き続けるって大変
楽しく、やりがいを持って働ける
職場づくりも大切

つないで！役立つ！
手ごたえもある
断らない・嫌がらない(笑)



あ〜こんなに
頑張ってるんだものね…
NPOの給与、
もっとあげられたらイイ！



中間支援団体の仕事、
研究センターの仕事、
全部、時間かかるよね。
ずっと頑張ってきた

スタッフ10名の対話のテーマ

水色ポストイット

今、苦勞している仕事どんなこと？

ピンク色ポストイット

仕事をする私を支えてくれる
キーパーソンや過去の経験は？

緑色ポストイット

よこはま地域福祉研究センターが
頑張っていること・成果は？

黄色ポストイット

これからの私たちについて

私たち、よこはま地域福祉研究センターは、2012 年度に設立し、今年 12 年目を迎えました。

ビジョンは「人と地域のしあわせの実現」。ミッションは、「あいだの人」であることとして、歩んでいます。加えて、行動指針は「対話×創意工夫×行動」。

「危機の時代」とまで言われるようになった今日の社会において、希望へのビジョンを掲げ、様々な人と共に、時代を明るく、逞しく、乗り越えていく研究センターでありたいと思っています。

自然環境・社会環境、双方の危機を回避し、未来につなげることが問われる中、福祉推進は、社会保障・社会福祉制度が適切に整備され摘要されると同時に、共同体の人間関係、市民の間に、その推進の必要性が認識され推進しようとする主体的な意志や行動が不可欠だと考えています。

だから、私たちは、様々な「あいだ」に拘ります。

初めから正解がある仕事ではないから、決して予定調和で成果を見出そうとしていないからこそ、「あいだ」にいて、私たちが葛藤したり、悩んだり、絶望しそうになったり…仕事に鍛えられつつ、生活者でもある、ひとり一人のスタッフが「どう生きるのか？どうしたらしあわせになるのか？」考えながら重ねる日々なんだと思います。

既に様々な仕事に向き合いはじめた 2024 年度、はじめての事務局会議は、スタッフみんなで、今、どんな想いを抱いているのか、語り合う時間としました。

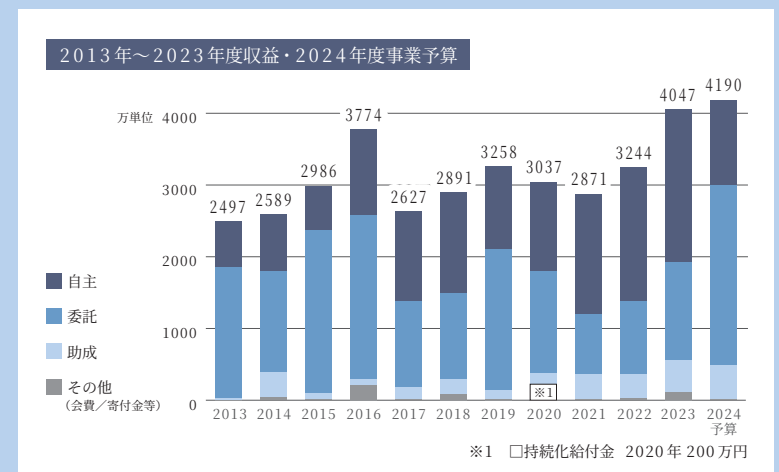
良く語り、よく聴く、正に対話は、年度のはじめ、本当に有意義な時間になりました。

過去 11 年、そして、2024 年度の予算をグラフにしました。

毎年、決定した事業がない組織ですが、自主事業・委託事業・助成金の大きく3つを事業収入として、事業計画に沿って、取り組みを重ねています。

自主・委託・助成、どの事業も、協働する人や組織との信頼関係を築くこと、トライ&エラーを繰り返すことがあっても私たち自身が納得感の持てる成果を求め、新たな発見につながる仕事をするのが大切と思っています。

- 2016 年度は、調査研究報告書の編集業務で大きな委託を受けました
- 2020 年度は、コロナ禍、持続化給付金を受けることができました。
2024 年度より、事業収入が 4000 万円を超える状況になっています。



休眠預金活用事業（JANPIA 事業）

困難を抱え孤立する子ども・若者の社会的自立支援事業

～地域との連携・協働による参加体験型プログラムの開発と推進～

2022 年度休眠預金活用事業の資金配分団体として、NPO 法人神奈川子ども未来ファンドとコンソーシアムを組み、休眠預金を原資とする総額 5,000 万円を、子ども・若者の支援を展開している 5 つの実行団体に 3 年間（2023 年 4 月～ 2026 年 2 月）助成し、伴走支援を行っています。



多様で特色ある実行団体

今日の社会情勢、経済状況、格差の拡大、多様化する家族形態、IT・SNS などによるコミュニケーションの変化の中で、さまざまな生きづらさを抱え孤立する子ども・若者が増えています。一方地域では、さまざまな形の市民活動団体（公益民間活動）が、これらの子ども・若者の存在に気づき、彼らに寄り添う伴走支援が行われています。

今回選ばれた実行団体は、それぞれの特色を生かし、さまざまな地域の人々や資源、また行政や専門機関と連携しながら、子ども・若者への参加体験型プログラムを提供し、社会的自立に向けての支援を行っています。

団体名	事業名
1 特定非営利活動法人 フェースタートサポート (横浜市中区)	児童養護施設等の子ども達の為のキャリア教育事業 社会経験の少ない社会的養護の若者へ、会社見学、職業体験などを実施し、将来の自分のキャリアを自己決定し、自立へのあゆみを進めることができるようサポートする。 また、施設と企業、地域をつなぎ、社会的養護の若者が地域で見守られながら自立への道を歩むことを目指している。
2 特定非営利活動法人 横浜メンタルサービスネットワーク (横浜市港南区)	医療・福祉・教育の挟間で生きづらさを抱えた、小・中・高校生支援 中高生の居場所「Irodori」を活用し、スタッフとの信頼関係を築き、仲間と共に様々な体験を重ねる中で、自己肯定感を養い、生きるチカラを身につける。生きづらい社会の中で健康な心で生きていけるよう予防的な取り組みを行う。
3 一般社団法人かけはし (横浜市区)	不登校の子どもと生きづらさを抱える若者の社会的自立に向けた活動 地域の高齢化等で耕作が困難になった農地を活用し、不登校、生きづらさを抱えた子ども・若者が解放された自然空間で地域の方々と触れ合い農作業を通じ、自己肯定感を育みながら社会的自立を支援する。
4 特定非営利活動法人 よこすかなかながや (横須賀市)	子どもに寄り添い、学習と職業体験にフォーカスした自立支援事業 厳しい家庭環境から孤立しがちで学校に通えない、また通いにくい子どもたちに、安心して過ごせる場、学べる場を提供し、基礎学力、生活力、社会適応力を身につけ、将来自立するための力を養う。
5 一般社団法人 多摩区ソーシャルデザインセンター (川崎市)	地域の若者が担う互助の支援により、不登校・引きこもりなどに対する居場所づくりと社会体験を行う事業 多摩区ソーシャルデザインセンターが開催している既存の活動の場を活用し、孤立しがちな若者が、同世代の学生との関係性や、地域の多世代との出会いを活かした参加体験型プログラムにより、主体性、協調性を養い社会的自立へ導く。

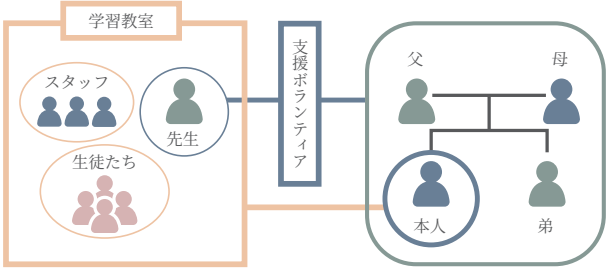
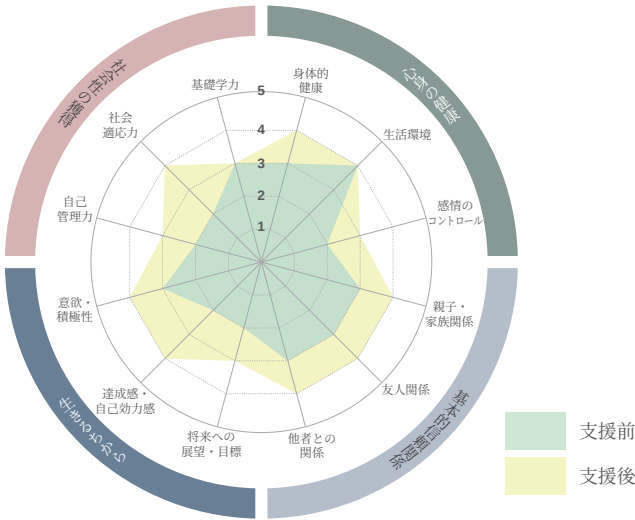
よこはま地域福祉研究センターの取組み

2018 年～ 2020 年に県内 300 の子ども・若者支援団体にご協力頂き、子ども・若者の育ちや自立に係る気になることについて回答いただいた膨大な情報をもとに、子ども・若者の育ちづらさ・生きづらさをチャートにし、困難を抱える子どもたちの多様性・複雑性・複合性が見えるようになりました。

本事業では更に、子ども・若者の課題に注力した改善を目指すチャートから、困難な時代において、子ども・若者が主体的に生きるチカラを持つことを願い well being の視点も加えたチャートを作成しました。

本事業の 5 つの実行団体の方々は、それぞれ個性的で、その団体だからこそ、様々な出会いがあり、体験をすることができます。困難を抱える子ども・若者にどのような変化をもたらすのか、どのように本人及び家族の孤立が改善されていったかを可視化し、これらの活動の成果と価値を事例集などにより、広く社会に発信することを目指します。

センター設立より 11 年間、子ども若者の健やかな育ちと自立を願って取り組みを続けてきました。この事業を通して、現代社会において、豊かに、未来に希望を持って育つ、子ども若者が一人でも多くなることを、また、子ども・若者の育ちを身近な地域で、見守り、関わる、人や団体が増えていくことを信じて、取り組みを続けます。



実行団体のみなさんのコメント



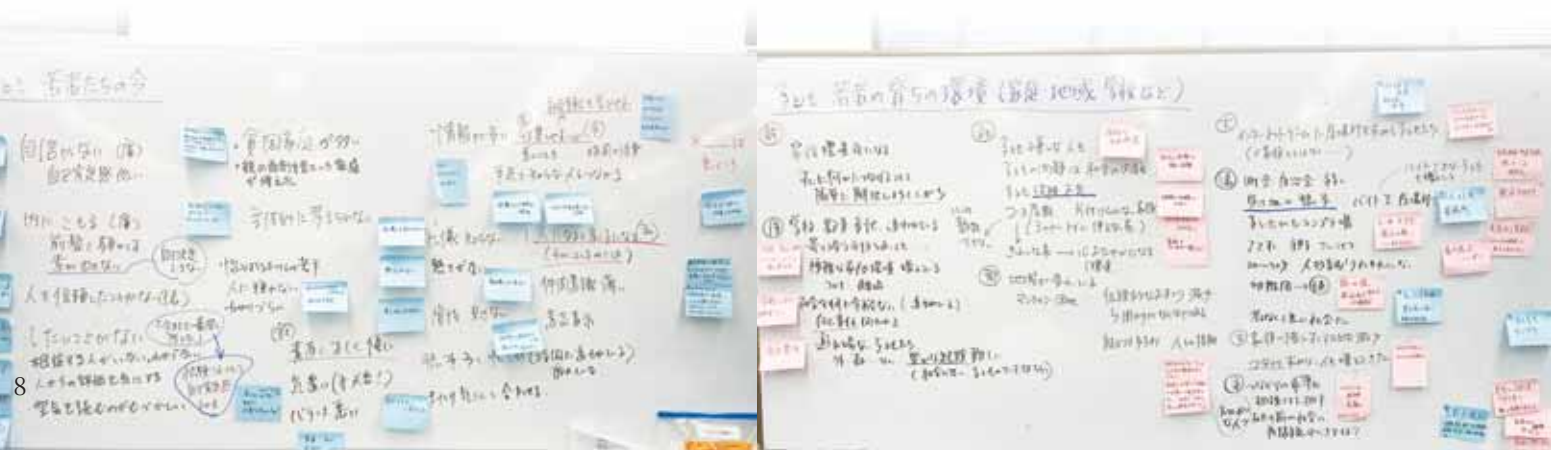
一般社団法人かけはし
廣瀬さん

休眠預金活用事業では、本当に親身になって悩みを聞いてくださったり、新しい視点を与えてくださったり、温かく力強いサポートをしていただき、感謝しかありません。私たちの団体の理念や強みを理解した上での伴走支援は本当に励みになり、大きな勇気やパワーをいただいています。今後ともよろしくお願い致します。



NPO 法人フェースタートサポート
吉原さん

休眠預金活用事業では主に私達が個別伴走支援をしている若者のケース分析についてサポートいただいています。毎月の面談で若者の就労支援の経緯をご報告し、若者にどのような変化が起きているのかを言語化していただくことで、私達も自分達の活動によってどんな効果が表れているのかを多方面から改めて認識することができています。





子ども・若者の育ちと自立を支える人材育成セミナー

育つチカラ・生きるチカラを地域がエンパワする！ 2024

子ども・若者の育ちづらさ・生きづらさの背景を理解し、子ども達の健やかな自立を目指す人材育成セミナーを、3回シリーズで行いました。

社会的背景や価値観はどう変化しているのか、子どもたちが安心して自己肯定感を育くむためにどう寄り添っていくのか、各講師の活動やキーワードをヒントに、対話を通して探りました。

第1回 児童期・青年期の「孤立」がもたらす「生きづらさ」

講師：NPO 法人 PIECES 理事／ソーシャルワーカー 齋 典道氏



子ども達が孤立のループに陥るメカニズムや児童期の逆境体験が心身に及ぼす影響、「支援者」よりむしろ「市民」として子どものありのままを受け入れ関わる大人の存在の重要性を学びました。子どもとの関わりを見直す機会になったとの声が多く寄せられました。



第2回 「あそび」(体験型プログラム) が生み出す地域のつながりと子どもの社会性

講師：NPO 法人ハンズオン埼玉理事／岡山県真庭市立中央図書館長 西川 正氏



大人に監視されず子どもが主体的に想像力を発揮し自己肯定感を育む「あそび」の時間が奪われている現状に警鐘を鳴らし、地域の大人との普通の関わりが大切と説く西川氏。後半には「みんなの居場所駄菓子屋☆まんま遊〜と」を主宰する山崎由恵氏との対談も交え、「あそび」の持つチカラを参加者と共に考えました。



第3回 当事者と地域社会が一丸となって！子ども・若者の社会的自立を考える

講師：NPO 法人場作りネット副理事長 元島 生氏



安心して眠れる、皆が主体性を取り戻す「場づくり」の活動から見えてくる生きづらさの現状、「助ける」でなく「助かり合う」というキーワード。誰もがエンパワーされるまちを目指し、止まることのない取組みを続ける元島氏に触発され、参加者の対話も熱を帯びました。



- 全3回 2024年2/16(金)・3/6(水)・3/19(火)
- 受講延数：38名 ●参加実数：24名

障害児・者の保護者のための交流事業

CANDY BOUQUET キャンディブーケ

※この事業はなかくふれあい助成金を一部財源としております

2023年度のキャンディブーケでは以前実施したことのあるワークショップを当事者保護者からリクエストをいただいて3回、新規のワークショップ・交流会を1回実施しました。

当事者保護者から以前行ったワークショップの中からリクエストを受けたことは、キャンディブーケの事業が保護者の満足度が高く、生活の一部になり、より豊かな生活を送るためのヒントを提供できたものだと感じました。

障害児・者保護者×支援者×オムツメーカー×施設×地域

昨年度に引き続き様々な組み合わせで交流し、意見を交わす機会を持つことができました。

また、新たに障害児者施設でありながらも地域で交流の場となっている場所でのワークショップ開催や家族のギャラリー開催で、より多くの人に障害のある当事者・家族の事を知ってもらうきっかけづくりが出来ました。



参加者感想

幸せが循環するキャンディブーケの取り組みは本当に素晴らしいです。この活動が広がってほしいです
当事者保護者

普段なかなか出来ない、没頭してものづくりをする時間は穏やかな癒し時間でした
当事者保護者

オンラインで参加できるのがとてもありがたかったです。メーカーの方に伝えたい思いを伝える機会をありがとうございます
当事者保護者

ワークショップを通して一人としての豊かさが広がった
支援者

家族のギャラリー Vol.6 開催

キャンディブーケワークショップ・交流会を通して出会ってきた彩り豊かな家族。家族にしか語れない言葉と共に写真を展示しました。

2023年度のテーマは【LOVE】障害があることで生きづらさもあるけれど、そんな毎日の中で見つけたLOVE。

年々展示会場として協力して頂ける施設が増えました。そこでの地域の方々とのコミュニケーションも増えています。



キャンディブーケ事業発信活動として、youtubeで今年度行ったワークショップの様子・家族のギャラリーに寄せられた写真とコメントを纏め動画にして配信しております。是非ご覧ください



参加者感想

笑顔が素敵♡
幸せな気持ちになります

大変な事、規制がある中での幸せ。
大切にしていね

もっとたくさんの
写真がみたい

得意な事
楽しいこと
沢山見つけて
欲しいです

子供達も
もちろんだけど
家族のしあわせも
大切だね



横浜市箕沢地域ケアプラザ
地域活動交流コーディネーター
伊藤 彰子 さん

今の社会を生きていく子どもたちにどう寄り添うことができるのか、一緒に宿題をしなが、遊びながいつも考えています。研修では毎年自分の取り組みを振り返り、講師の方と参加者さんから、1歩前に進む勇気を頂いています。



NPO 法人
横浜メンタルサービスネットワーク
原 悦子 さん

研修に参加し、支援員でも市民の方でも子どもたちを見守り、関心を持ち、つながり続けることが元氣や生きる力を取り戻すことに繋がると思い、子どもたちとの交流を通して、安心と思える時間を作りたいと思いました。



共に生きる社会づくりのためのオンライン講座

PART 3

「ガチガチをゆるゆるに！弱さを大胆に！不安を可能性に！」今、目指そう、障害児者にとっての地域での自立生活」をメインテーマに2021年から始まったオンライン講座も3年目を迎えました。

ポストコロナから日常が戻ってきていますが、オンラインというツールはそれぞれの暮らしの場から、繋がることができ「共に生きる社会」づくりを立場や地域を超えて語り合う私たちの“場”となっています。

PART 3では、「コミュニケーション」「家族」「暮らしと就労」の3つのカテゴリで対話を重ねました。

- 全8回 2023年9月9日～2024年2月25日
- Zoom ミーティングを使っのオンライン講座
- 参加申し込み延べ 216人

この講座はNHK 歳末助け合いの分配金により実施しました



第1回 キックオフ講演



講師 又村 あおい氏

講師：全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長 又村 あおい氏

「令和6年4月の総合支援法・自立支援法の改正…実は今年のテーマとすごく関係があります」

制度自体は変化していますが、「本人の意思を基本とした暮らしぶりの実現、地域生活の推進など」変わらない支援がそこにはあります。「出会いと経験」「家族との関係」「暮す・働く生活環境」障害児者が成長するためのファクターを問いかけてました。

【感想】

「制度は使うもの」であることを忘れてしまいがちです。親がガチガチのルートをかんがえてしまっていました。

ひとりでモヤモヤしているより、福祉に関わるいろいろな立場の人とつながり、対話できるので、実生活に繋がる工夫やヒントが生まれてきます。

第2・3回 カテゴリⅠ コミュニケーション

「育ちの過程で出会い・体験を通して豊かなコミュニケーションしてますか？」

プレゼンター：生活介護事業所& COCO 小菅 敏朗氏のコメント

この度ご縁を頂き、普段仕事場面で活用している「指文字」「指筆談」についてお話をさせていただきました。どんなに重たい障がいがあっても、「伝えたい想いはある」というのは、私の20年間障がい福祉の現場で働いてきた上での実感ですが、どうこの事を堂々と世間に伝えていくことが出来るかという点は、未だに術がないのが実情です。

「重症心身障がい者は言葉など話せるわけない」といったまさにガチガチの思想を、「そうでもないんじゃないか」「そう我々が思いこんでいるだけじゃないか」と考えることの出来る柔軟な頭の切り替えが必要のように思います。共に登壇していただいた皆さんのお話を伺い、ワクワク、キラキラが沢山詰まっていました。「面白そう」から人は興味を持ち、自ら学び吸収をしているのだと思います。是非多くの皆さんにこのオンライン講座を見て頂きたいと強く思っています。



第4・5回 カテゴリⅡ 家族

「障害児者とその家族 育ち合う家族であることの価値と可能性」



福岡 寿氏と田中 真佐美氏

講師：日本相談支援専門員協会顧問 福岡 寿氏のコメント

今回のテーマはこれまでも、相談支援専門員として「障害児者とその家族、家族支援、ファミリーサポート…」当然すぎるぐらい身近なテーマで、ずいぶんお話をさせていただいたり、考えたりしてきたつもりでしたが、そこに、「育ち合う、価値、可能性…」というワードが加わると、これは、一筋縄ではいかないというのが直感。そこでは、待望の二度目の出会いに恵まれたバステルアート作家田中真佐美さん、そして、「作家」兼「絵本出版」兼「落語家・絵書家筆之輔」ことマルチな保科さん、スナック都る美キャラ弁部長の濱崎さん。それぞれの人生ストーリー、それは家族相互の拮抗とスパークから紡がれていく。刺激とワクワク満載の時間でした。横浜で相談支援専門員として業務に携わる大西さんも私も、皆さんに伍して拮抗し、スパークしなくては、改めて、この仕事をしていて良かった。



第6・7回 カテゴリⅢ 暮らしと就労

「成人期のしあわせは、暮らしと就労」どんな暮らし・どんな仕事をして生きるのか問い続け実現する

プレゼンター：緑区育成会 伊原 文恵氏のコメント

「子供も親も周りも皆が笑顔になれる社会を」

この講座を知ったのは又村あおいさん関係のSNSでした。のぞき見根性で1年目は視聴者として参加しました。地域共生と本人の意思決定支援などを生涯にわたって語り合う多彩な素晴らしい講師の方々に魅了され、2年目からはなぜだか保護者としてお話をさせていただく方で参加しています。息子は支援を受けての就労と独居生活にチャレンジしていて、我が家にはまさに旬のテーマで各地の取組や講師の方達の熱い思いに私も勇気をいただいています。

福祉、制度、権利といったガチガチな枠組みを守る制度の中で生きているのではなく、本人も親も支援者も地域のかたも「何か面白いこと」「特別でない素敵なこと」をゆるく協働することで大きな輪を作りたい。今後もいろんな取り組みが、どこにでも実現できる社会を、ここに集う皆さんと、そして今まさに生きている地域でも考えていきたいと思っています。



プレゼンター ぶかぶか 魚住 佐恵氏



プレゼンター 松風学園 江原 顕氏

第8回 クロージング

講師：又村 あおい氏 ファシリテーター：佐塚 玲子センター長

令和6年度の児童福祉法・障害者総合支援法の改正、報酬改定は一見、暮らしや就労、地域移行、障害児の親の就労支援などが充実していくようではあるけれども、使えるサービス、それぞれの地域や人に適したサービスになっているのか、地域の人との交流はどうなっていくのだろうか…

制度が整うことでインフォーマルな支援が後退する（地域との距離が広がってしまう ジレンマ）

共に生きる社会 インクルージョン（共生）からビロンギング（出番と役割を得て所属性が感じられる）への発展へ



【感想 今後に期待する事】

- ・共に生きる社会は障害児者だけではなく、社会的弱者の孤立老人、ニート、ヤングケアラー、貧困家庭の家族等色々な状況をどうやって共生していく社会を目指すか、各個人・法人の頑張りよりも多種の方々関わった地域連携の事例を知りたいと思います。
- ・制度を作ることがゴールではなく、当事者・家族の思いを大切にしたい地域でのより良い暮らしを実現すること（最終ゴールはもっと先にあるかもしれませんが…）をみんなで意識し続けたいです。

《最終回》 みんなの大トークタイム

- ①生きるチカラを育てること・自立する事を阻んでいるものは
 - ②当事者も親も育ち合う関係であることの大切さ、心がけることは
 - ③障害児者の自立を考えると直面する 障害の違い、年齢（ライフステージ）・分野のそれぞれの違いとつながり
- 参加者がそれぞれ自分の言葉で、直面する問題あるいは気付いていることなどを話しました。



社会福祉法人 素心会 社会福祉法人 横浜愛育会

二つの障害福祉を行う社会福祉法人の職員さんと、共に考え、行動して事業が継続しています。この仕事は、それぞれの法人の障害福祉現場を職員の皆さんとダイレクトに繋がって、リアルに見聞きし、中間支援団体として、研究センターとして、どんな支援ができるのか一緒に考え、探求して、実現していく、学びの多い、やりがいのある仕事です。

障害福祉分野も、制度政策は変化し続け、法人として、当事者・家族・地域にどう向き合うのか？ニーズに応え成果を出す事業とは何か？そういった転換期において、職員間の合意形成や育成をどうするのか？そして、法人と地域社会の距離を近づける方法は？

2023 年も、年間、様々なアクションを展開しました。

社会福祉法人 素心会

素心会は、過去 2 年に渡って、「新理念構築」＆「HP リニューアル」という大きなミッションを抱えていました。それぞれ、プロジェクトを組織して、ミーティングやワークショップなどを重ね、2023 年度は、新理念完成！HP についても、基礎的スキルを身に着け、新年度に向けて歩みを進めることになりました。

■新理念「仁智働結」

素心会らしい理念誕生。新しいパンフレット制作。新生素心会を多くの方々を知り、沢山の関わりが増えますよう。

■新理念構築プロジェクト座談会開催＆ HP 掲載

2 年越しの理念づくりの対話を通して、チームメンバーたちが語り合いました。理念づくりの過程は、大きく 4 つに分かれる事業担当者が互いに知り合う機会にもなり、これからの発展的チームアプローチに大いに期待を持ちました。

■ HP リニューアル スキル研修 (全 3 回)

- スキル研修① 4 月「効果的な写真を撮る！～ねらおう！奇跡の一枚を」
講師：柏田 貴代氏 ナチュラルフォト横浜
- スキル研修② 12 月「伝える⇒伝わる⇒行動する」を実現する素心会の広報を
講師：佐塚 玲子 よこはま地域福祉研究センター
- スキル研修③ 1 月「制作してみてわかる⇒伝える⇒伝わる⇒行動する」
講師：神並 梢 神並デザイン事務所

新しい年度、6 月には、法人を掲げて行う「大フォトコンテスト」も開催予定。



社会福祉法人 横浜愛育会

愛育会は、JR 大口駅近くに、作業所やグループホームが点在する法人です。横浜市でも 3 本の指に入る大きな商店街があり、少し懐かしい地域文化を残しています。

そんな中で愛育会もまた、地域に溶け込みながら成長してきた法人だと思います。

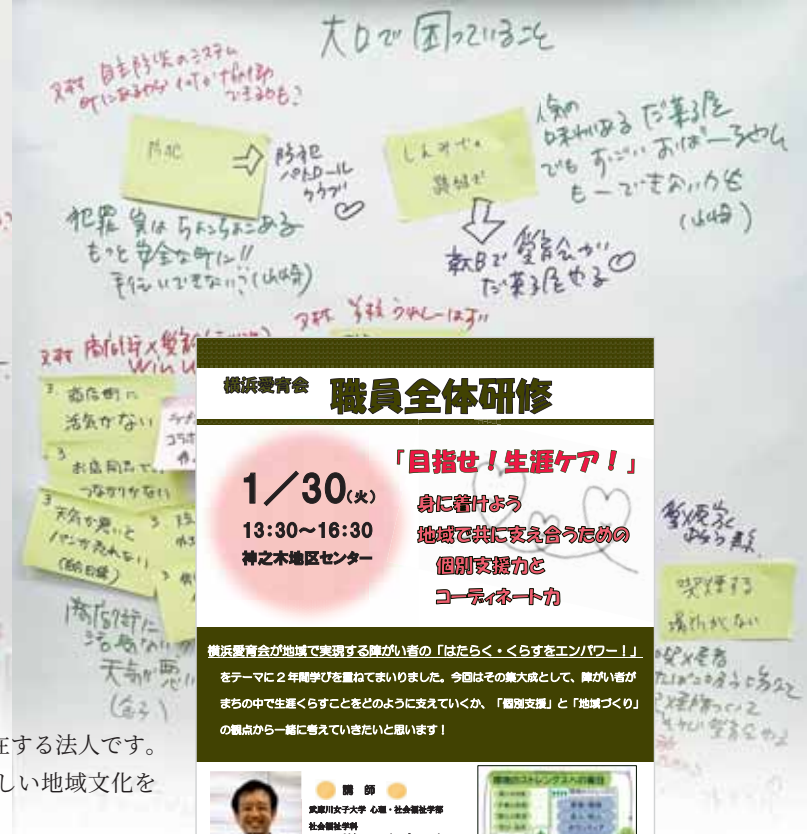
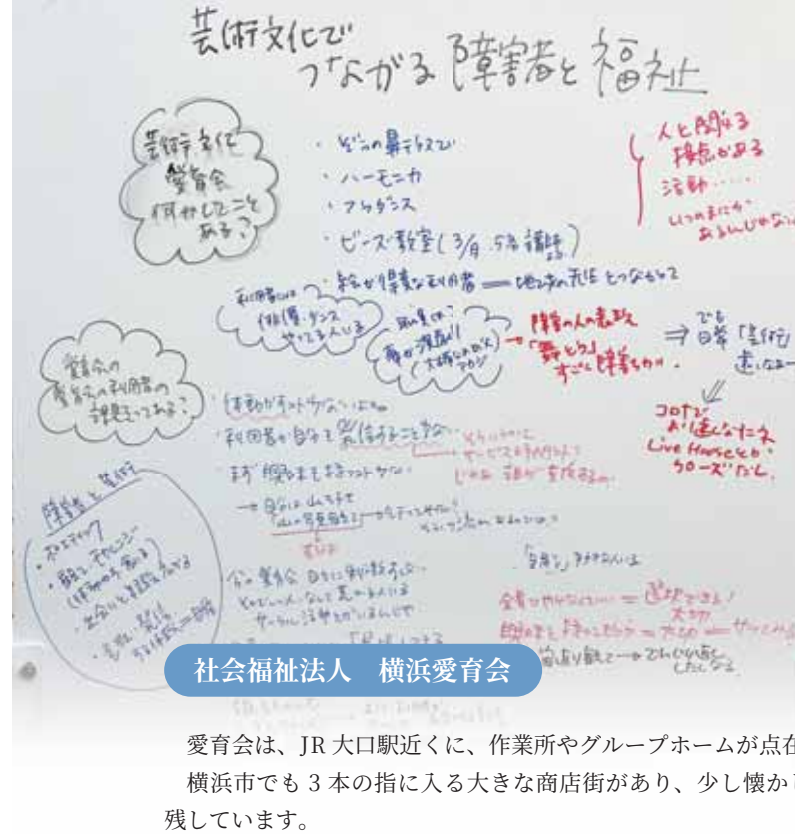
2023 年度までの 2 か年は、全職員については「利用者主体のサービスの質の向上」を目指し、管理者はより一層「地域とのつながりを深める取り組みの探求」を重ねています。

■全職員研修

- 7 月 「救済型支援と基本的支援 (Advocacy) の目的」を理解して行う当事者アプローチ」
- 1 月 「目指せ！生涯ケア！身に着けよう、個別支援力とコーディネート力」
講師：増田 和高氏 武庫川女子大学 文学部 心理・社会福祉学科 准教授

■管理者研修

- 9 月「スマホで撮る！愛育会をもっと発信するために！」
講師：柏田 貴代氏 ナチュラルフォト横浜
- ワールドカフェで保護者をつながる準備会
講師：佐塚 玲子 よこはま地域福祉研究センター
- 3 月「職員が法人・事業所の今を保護者に伝えるプレゼン勉強会」



第 4 期港南区地域福祉保健計画 中間振り返りに係るコンサルティング業務委託

第 4 期港南区地域福祉保健計画「港南ひまわりプラン」は 2023 年度、中間振り返りの年となります。そのコンサルティング業務の委託を受け、5 回のグループインタビューと、それをもとにした中間振り返りのリーフレットを作成しました。

港南ひまわりプランの理念「ふだんのくらしをしあわせに」。そのための 4 つのアクション「知る」「つながる」「できることをやる」「支えあう」が大きな柱となっています。この取り組みの推進状況を知り、今後につなげるため、地域の様々な活動者、企業、商店、医療・教育のみなさんへのグループインタビュー、子どもから高齢者まで幅広い住民が参加した「しゃべっ Ciao ♪」などをとおして、幅広いご意見を伺いました。

計画の内容についてはまだまだ知らない方も多く、また自分たちの取組みがプランとは結びついていなかったという声も聞かれました。地域活動だけでなくどの分野でも人材不足という中、高齢者が元気に活動し、支えていることもわかりました。

「もっと港南ひまわりプランの内容を知らせていこう」、「みんなで集まり対話する場を地域に作りたい」、「子どもも地域の大切な一員として、一緒に活動する機会を増やしていきたい」など、計画後半にかけて取組みのヒントも得ることができました。



しゃべっ Ciao ♪
12月16日開催 参加者 49 名



グループインタビュー

- 第 1 グループ 多様な地域活動者の皆さん・ボランティア活動をされる皆さん（11/7 開催：参加者 9 名）
- 第 2 グループ 福祉・医療・教育・まちづくり等、分野の異なる専門職の皆さん（11/2 開催：参加者 12 名）
- 第 3 グループ 商店・企業（見守り事業者の方々）の皆さん（11/27 開催：参加者 9 名）
- 第 4 グループ 港南区地域福祉保健推進協議会の皆さん（11/16 開催：参加者 12 名）
- 第 5 グループ しゃべっ Ciao ♪（12/16 開催：参加者 49 名）

横浜市健康福祉局地域支援課委託事業

～ポジティブマインドでICT利活用を！～

新型コロナウイルスの拡大は、市民生活に大きな影響を与えました。横浜市地域ケアプラザ、また、福祉保健の推進に従事する職員についても、地域住民等との相談及び自主事業業務をオンラインで適切に運営・開催できるよう、必要な知識・技術の習得を図ることが必要な時代になったと言えるでしょう。

2023 年度、年度中盤で横浜市の委託を受け、これらのニーズに対応するオンライン研修の企画を行い、配信することができました。

7 月末の契約締結後、事業企画に入り、8 月中には、市と事業実施のための打ち合わせを行い、講義内容や方法などを含めた講師調整・研修広報の制作配信・撮影準備など、タイトなスケジュールの中、取り組みました。

当センターとしても、初めてチャレンジする ICT に関する研修でしたが、講師陣のご理解、日頃よりセンター事業に協力を頂いている、広報デザイナーや撮影スタッフの方々、そして、市との協働により、11 月中旬には全撮影が無事に終了し、12 月に予定通り、市内地域ケアプラザ職員等、福祉職の方々に、正に、ポジティブマインドで ICT 利活用をするための研修動画を配信することができました。

配信動画については、年度内の期間ということでしたが、視聴回数は、日を追うごとに伸びています(下図参照)。できれば、もう少し、視聴できる期間が何らかの方法で延長できることを願っているところです。

＜研修内容＞

基礎的分野

- Step1 「福祉現場での ICT 利活用の価値と実践を拓く」
- Step2 「IT 技術の基礎を掴む」
- Step3 「適切な管理によって積極的な ICT 利用を」

STEP 1-3

講師：村井 祐一 先生

田園調布学園大学
人間福祉学部 社会福祉学科 教授（学部長）



実践的分野

- Step4 「積極的な活用へ！地域ケアプラザ等の多様な現場でICT」

STEP 4

講師：高室 成幸 先生

株式会社ケアタウン総合研究所 代表取締役

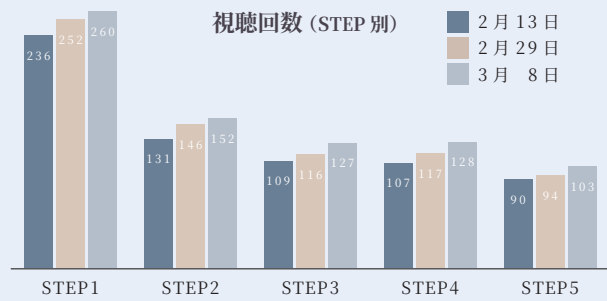


- Step5 「オンライン特有のコミュニケーションを考える」

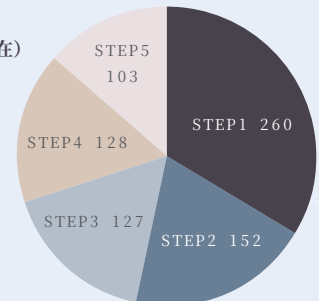
STEP 5

講師：加留部 貴行 先生

九州大学大学院 統合新領域学府
ユーザー感性スタディーズ専攻 客員教授
NPO 法人日本ファシリテーション協会 フェロー



総合計
(3月8日現在)



横浜市地域包括支援センター職員研修

市民と地域に共に生きる地域の創造を目指して、今、ソーシャルワーク力を高める！

複雑、多様、かつ複合的な課題を抱える当事者・家族が増え、「生きづらさ」が広がる地域社会。地域包括支援センター職員には、高齢者に限定しない地域住民への支援、また、暮らしやすい地域であるための地域支援が期待されています。

本事業は、プロポーザルを経て委託が決定しますが、既に10年継続して実施しています。この間、新型コロナウイルスの影響を受け、福祉拠点における相談支援について制限がかかると共に、地域支援事業も思うように実施できない事情もありました。また、福祉事業に従事する人材の不足も深刻で、高齢人口によって各ケアプラザの包括職員の加配が行われるも、欠員のあるケアプラザも年々増えている状況にあります。

包括職員として求められることが高まる一方で、職場体制の厳しさや、包括職員間、ケアプラザの職員間の連携協働体制づくりの難しさを訴える受講者も少なくないのが現状です。

令和5年の包括支援センター職員研修、基礎編・応用編は、こうした状況を掴んだうえで、現場に生きる情報・知識・技術を習得し、自信とやりがいを感じて業務に取り組めるよう企画運営に臨みました。

基礎編

対 象：経験年数1年未満の包括職員

開 催 日：①5/30(火) ②6/16(金) ③7/12(水) ④8/10(木) ⑤8/23(水)

時 間：13：30～17：00 会 場：ウィリング横浜

受講延数：218名 参加実数：64名

プログラム>

プレワーク（現状把握シート）の実施

第1回 横浜市地域ケアプラザと地域包括支援センターの意義と役割

「地域ケアプラザとは」講 師：横浜市健康福祉局 地域支援課

「地域包括支援センターとは」講 師：横浜市健康福祉局 高齢在宅支援課

「横浜市地域包括支援センターの実践」

実践報告者：横浜市内地域包括支援センター 3職種及び所長

コーディネーター：よこはま地域福祉研究センター センター長 佐塚 玲子

第2回 地域包括支援センターが推進する権利擁護（アドボカシー）の実践

講 師：武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 准教授 増田 和高氏

第3回 高齢者理解／介護予防の必要性と対策

講 師：東京大学高齢社会総合研究機構 機構長

東京大学未来ビジョン研究センター 教授 飯島 勝矢氏

第4回 総合相談の役割と実践法（個別支援と地域支援の連動）

第5回 地域包括ケアの実践法（生活を包括的に支援する対人援助システム）

講 師：（第4、5回共通）花園大学社会福祉学部 教授 福富 昌城氏



応用編

対 象：基礎編既受講者または、経験12ヶ月以上の横浜市内地域包括支援センター職

開催日：①9/19(火) ②10/23(月) ③12/1(金) ④12/22(金) ⑤1/29(月)

時 間：13：30～17：00 会 場：ウィリング横浜

受講延数：107名 参加実数：49名

プログラム>

第1回 地域包括支援センターが、ヤングケアラーを知る

講 師：立命館大学産業社会学部 教授 斎藤 真緒氏

第2回 Inclusionを意識して障害児者との地域共存を

講 師：埼玉県立大学 名誉教授 朝日 雅也氏

第3回 人生100年時代の高齢者福祉を拓く！

地域包括支援センターの高齢福祉現場での期待

「高齢者と支援者の社会的孤立を防ぐ」

講 師：東京都健康長寿医療センター研究所 副所長 藤原 佳典氏

第4回 事例検討① 地域包括支援センター職員が行う事例検討の意義

第5回 事例検討② 検証！3つの事例検討による

講 師：（第4、5回共通）相模女子大学人間社会学部 准教授 松崎 吉之助氏

コーディネーター：よこはま地域福祉研究センター センター長 佐塚 玲子



＜今年度の事例検討＞

事例提供者

- | | | | |
|--------------------------------------|----------|--------|---------|
| ●「8050 世帯を支えるための地域包括支援センターの役割と多職種連携」 | 東寺尾地域 CP | 主任ケアマネ | 市之宮 美穂氏 |
| ●「個別支援と家族支援の両立を考える」 | 新橋地域 CP | 社会福祉士 | 中山 菜穂氏 |
| ●「大小様々な多くの問題を抱えている家族への支援」 | 常盤台地域 CP | 保健師 | 長井 有佳氏 |



主任ケアマネ 市之宮さん



社会福祉士 中山さん



保健師 長井さん

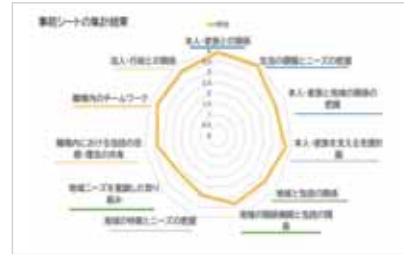
事例検討の視点

- 人と環境の関係をとらえる視点
- システムでとらえる視点

過去3年、事例検討に提供される事例は、複雑で、複合的な課題を抱える当事者と家族のケースが圧倒的に多くなっています。この状況からも、日常の包括職員のみさんの、家族を含めた個別支援力と共に、課題を抱える人たちが暮らす地域に目を向け環境に働きかける地域支援力も求められていることがわかります。

どのようにクライアントとの関係を築き、ニーズを捉え、段階を追って支援を重ねる取り組みをしているか、今年も3人の包括職員さんがプレゼンし、受講者の皆さん全員で検討することができました。

「事例検討シート」を使って、参加者それぞれが、客観的に「本人・家族（一つのシステム）」「地域（環境）」「支援者（環境）」の3つの視点から分析した内容を講師に提出。その集計を元に事例ごとに講師がテーマを設定し、参加者全員で討議を行いました。事例検討は、新たな支援、また支援の深め方を学び合いの中で発見することができます。「ソーシャルワーク力」という武器を手に入れた受講者が現場で自信を持って楽しく活躍してくれることを期待したいと思います。



横浜市専門職（社会福祉職・保健師）階層別研修実施に係る業務委託

横浜市は、令和4年度より社会福祉職研修実施に係る業務を一部外部委託することとし、当センターが受託することになりました。

令和5年度は、新人職員から責任職等の階層、社会福祉職、保健師等、職種を拡げ、全27回の研修実施に係る業務を受託しました。健康福祉局福祉保健課と円滑な研修実施となるよう連絡調整を重ね、センター担当者も増員し体制を整え取り組みました。横浜市は、キャリアラダーに則り、職種ごとの人材育成に力を入れており、専門職職員としての基盤となる知識・技術、専門能力を身につけるためのカリキュラムを整備しています。

当センターは、本事業に関わることで自治体の目指すところ、そのための養成プログラムの開発など、外部の研究者等と連携協働されていることを理解し、確実なサポートができるよう努めました。

当センターは、横浜市地域包括支援センター職員研修をはじめ多様な専門職養成に係る委託事業・専門職に限らず市民も含めた人材養成に係る自主事業等、人材養成に関する企画・実施について、スキルと実績を重ねております。本事業においても、横浜市担当者と密に連絡を取りあい、効果的で効率的な研修運営について時には提案し、意見交換を行いながら、一緒に業務を進めました。クライアントである横浜市と良好な信頼関係を築きながら、「あいだの人」として、よこはま地域福祉研究センターらしい業務ができたかと振り返っています。

令和6年度はさらに回数が増え、31回の同業務を受託しました。



関係性を広げながら、事業所とともに地域福祉を考える

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、急速に社会の動きが活発化し始めた中、新型コロナ以外の感染症の流行も多くみられ、多くの事業所は引き続きその感染予防対策に追われることとなりました。2023年度に受審をしていただいた多くの事業所では、引き続きwithコロナを念頭に、中止していた様々な活動を再開させたり、コロナ禍を経験して事業運営、活動など様々な角度から事業全体を見直し、ICT化を導入したりするなど、新たなステージに進んだ事業所も多く見受けられました。それでも、特に入所の施設においては、未だに利用者家族の施設内への立ち入りを制限せざるを得ない状況となることもあり、コロナ禍をきっかけに、利用者家族に利用者の様子を伝える更なる工夫

を求められるケースもありました。そうした中でたゆまぬ努力を続け、新たな展開を模索し続けている各事業所の様子が、評価結果を見て下さる方にきちんと伝わるよう、1案件ごとに議論を重ね、時間をかけて報告書を作成した1年でした。

評価機関としての新たな展開としては、当センターで実施している他の事業とのつながりから第三者評価の受審を依頼してくださる事業所がありました。これまで法人として大切にしてきた様々な人とのつながりが、事業のつながりにも広がってきたことを実感した瞬間でした。これからも単に評価を実施するだけではなく、ご受審いただく事業者との対話の中に、これからの地域福祉に必要なこと、可能性などを見出していきたいと思っています。

勉強会

評価調査者のスキルアップを目指して毎年開催している勉強会。2023年度は「保育園」「療育センター」をテーマに開催しました。



評価調査者の声

第三者評価は指導・監査等とは違い直接的な指導はしません。日頃どのような保育サービスが実施されているか、また、運営基準に沿った運営が行われているかを評価基準に沿って調査します。保護者へのアンケートの実施や、実際の保育場面も観察します。散歩の同行や食事を一緒にとる等子どもたちと直接コミュニケーションをもつことで、一人ひとりがのびのびと生活している様子、保護者や保育士との関係性等を確認できることが楽しみでもあり醍醐味だと感じます。保育園と一口に言っても、運営法人が全国規模の園、法人で一つのみ運営の園、0歳児から5歳児までの園、0歳児から2歳児までの園と形態は様々です。それぞれに特徴があり、ひとつの基準で評価することは難しいところです。第三者評価を受審した保育園がその結果により、良い点を更に伸ばし、改善が必要な点については園自身の気づきを促すことができるような報告書作成には毎回悩みます。保育園としてサービスの質の向上へのきっかけになり、評価を見た保護者が園選択のためのイメージが描けるような報告書の作成を心がけています。今後も第三者評価に関わり、これから活躍していく子どもたちが安心してのびのびと成長していくことができる環境作りに貢献できればと思います。

〈K.Eさん〉

第三者評価の調査者をしています。保育園での仕事が殆どですが、仕事以前に子ども達と関われること、様々な園を訪問できる事を楽しんでいます。同一法人で理念や方針が同じなのにそれぞれの園にはカラーがあります。献立や作り方が同じなのに出来上がった食事が微妙に違ってたりします。

訪問調査に何うと、受審園ではすでに自己評価をしたり、話し合ったりする中で問題点が浮き彫りになって、サービスの質の向上に繋がるような気づきになっていることも多くあります。第三者評価者として、職場で職員が見落としている良い点を拾いモチベーションに繋げられたらいいなと思っています。そして外部にも「この園はこんな特性を持っているんですよ」と情報提供をしていこうと思っています。毎日働いている職場で自分たちの仕事の良さを再確認し、地域で認められることは「子どもの最善の利益」を保障する最も近道だと考えていますから。

〈K.Sさん〉

2023 年度実績 受審施設（順不動）

【神奈川県内（児童分野）・24 件】
芙蓉保育園
もも保育園
南戸塚保育園
のはな保育園
丘の上保育園
東戸塚赤ちゃん保育園
あおぞら第2保育園
あおぞら谷津保育園
戸塚みどり保育園
たけのこ永田東保育園
座間子どもの家保育園
スターチャイルド《高津ナーサリー》
スターチャイルド《江田ナーサリー》
スターチャイルド《新丸子ナーサリー》
スターチャイルド《川和ナーサリー》

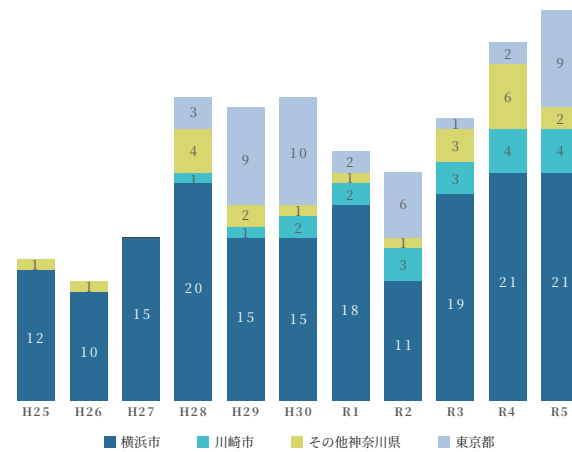
スターチャイルド《矢向ナーサリー》
スターチャイルド《生麦ナーサリー》
スターチャイルド《和田町ナーサリー》
あいせん保育園
みなみかせ保育園
げんきず第2保育園
聖母の園保育園
さくらの郷みらい保育園
たいせつ保育園

【神奈川県内（障害分野）・2 件】
朝日塾
すみれ園

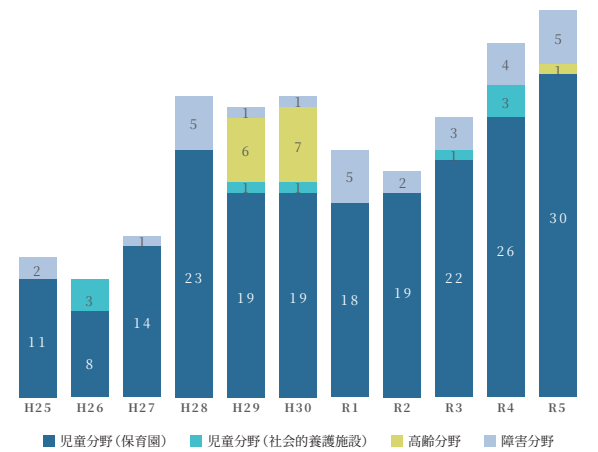
【神奈川県内（高齢分野）・1 件】
横浜市天神ホーム

【東京都内（児童分野）6 件】
ヒューマンアカデミー上石原保育園
ヒューマンアカデミー調布多摩川保育園
ヒューマンアカデミー西調布保育園
パレット保育園不動前
パレット保育園初台
パレット保育園大岡山
【東京都内（障害分野）3 件】
きりん館
自立生活体験室ステップ
八王子生活館

自治体別推移（件）



分野別推移（件）



指定管理者第三者評価

2023年度は横浜市地域ケアプラザ2件の評価を実施しました。当センターでは、横浜市委託事業として「横浜市地域包括支援センター職員研修」を実施していることもあり、横浜市の地域ケアプラザの現状を理解しつつ、所長をはじめとした職員の皆様との対話を行い、強みや弱みを明らかにしつつ、次のステップに向けての改善点など、多くの気づきを得ていただくことができました。地域ごとの特色や課題を受け止め、これからケアプラザが地域の方々に期待され、地域の福祉事業をけん引していくことにエールを送りたいと思います。

2023 年度実績

受審施設（2件）
横浜市滝頭
地域ケアプラザ
横浜市上菅田
地域ケアプラザ

評価員の声

私は、よこはま地域福祉センター設立時からセンター長の佐塚様やスタッフの皆様と横浜市指定管理者第三者評価に評価員として参加させていただいています。10年前に比べると、昨今このケアプラザも地域の子育て、障害、高齢の方々の多岐にわたる様々な相談事が増加しています。今年度担当したケアプラザも、地域事情や地理的条件等異なりますが、ケアプラザだけでは解決できない重層的な課題等も多く、行政機関や企業、地域の方が連携して問題解決に当たるための橋渡し役としてケアプラザが重要な役割を担っています。訪問調査では、事前にいただいた資料を基に、ケアプラザの所長以下職員との対話を通して改善点などを見出し、次に繋げていただいています。評価に際しては、職員の方々の日々の活動の努力に思いを馳せての対話を心掛けています。また一市民として「困った時はケアプラザ」が今まで以上に地域に浸透することを願っています。

〈K.Fさん〉

団体概要

役 員

理事長	豊田 宗裕	聖徳大学・聖徳大学短期大学部心理・福祉学部社会福祉学科 教授
副理事長	佐塚 玲子	神奈川県社会福祉審議会委員 神奈川県地域福祉支援計画評価・推進等委員会 相模女子大学 人間社会学科 講師 横浜 YMCA 福祉評議委員
理 事	太田 貞司	長野大学社会学部 教授
理 事	松崎 吉之助	相模女子大学・短期大学部 人間社会学部 准教授
理 事	加留部 貴行	九州大学大学院 総合新領域学府 客員准教授
理 事	鳴海 美和子	日本労働者協同組合連合会 センター事業団
理 事	及部 慶	元 社会福祉法人 同愛会
理 事	原島 隆行	社会福祉法人 若竹大樹会
理 事	武田 千香恵	社会福祉士
監 事	飯田 剛史	社会保険労務士法人ことのは

職 員

佐塚 玲子 センター長・管理責任者	沼 佐代子 子どもPJ 主担当・事務局	外部協力スタッフ	勝田 泰輔 IT サポートスタッフ
武田 千香恵 第三者評価主担当・事務局	酒井 智子 子どもPJ・横浜市委託事業サポートスタッフ		宮本 太郎 IT サポートスタッフ
手塚 揚子 子どもPJ 担当・社会教育JP 担当・事務局	武川 理絵 経理・総務・障害PJ サポートスタッフ		柏田 貴代 カメラマン
横井 千恵 事務局	加藤 絵里香 横浜市委託事業・第三者評価サポートスタッフ		神並 梢 チラシ・広報
柿沼 陽子 障害PJ 主担当 第三者評価事務局	田代 美代子 横浜市委託事業サポートスタッフ		

一緒に福祉のこと
考えませんか？

会員募集のご案内

- ≫ 種類・年会費
- 研究会員：個人…3,000 円／法人…10,000 円 〈法人の目的に賛同し入会した個人及び団体〉
 - 賛助会員：1 口…10,000 円以上 〈法人の目的に賛同し事業を援助する個人及び団体〉

- ≫ 会員になっていただいた皆さまには
1. 総会へのご出席
前年度の アニュアルレポート をお送りします。
事業内容等ご覧いただきながら会員間での情報交換、新たな取組への意見交換の機会を設けます。
 2. 当センター主催講座への無料参加
各事業主催の自主勉強会・講座を予定しており、会員の皆さまへはご案内をお送りさせていただいております。どれも無料で参加していただく事ができます。

寄付のご案内

- 法人の取り組みに賛同し活動を応援してくださる皆さまから、個人、法人の区別なくご寄付を受け付けています。
- 1 口…1,000 円 一口以上
- ご寄付いただいた皆さまには直近前年度のアニュアルレポートをお送りします。
お申し込みは当センターホームページより ▶ <https://yresearch-center.jp>

今年度も多分野の事業を行うことができました。

地域福祉を推進したいと願う当センターにとって、これらの仕事一つ一つが学びとなり新たなつながりを得る機会となっています。

設立時から、児童・高齢・障害福祉等の対象、福祉・医療・教育・就労等の分野を限定せず、市民や様々な専門職の方々と共に、調査研究を主軸に、社会教育・人材育成・ネットワーク構築の取り組みを積み重ねることができたことは大きな喜びです。

次年度は更に、事業が広がります。職員それぞれの経験が仕事の継続に、新たな仕事へと繋がっていることを実感します。

現在、職員は9名ですが、2024 年は、2 名職員増員の予定です。社会福祉関係の仕事に従事しており資格を持つ職員もいますが、

学校・特別支援学校の教員だった職員もいます。また、障害児を育てるお母さん職員も複数います。

効果的な仕事をするために、外部のグラフィックデザイナーやカメラマンの方々等にも大いに支えられています。また、当センターが企画する研修等を楽しみに参加してくださる方々や、快く講義や登壇を受けてくださる先生方、実践者の方々、こうした「人」が当センターの大きな財産となっています。

成長する組織に必要なものは「共通の目的」「仕事への意欲」「支え合い」と考えていますが、大切な財産を守っていくために、平時もこの 3 つの実現を確認して歩み続けたいと思っています。次年度も引き続き、ご支援・ご協力頂けますようよろしくお願いいたします。

講師・アドバイザー

■講師

- ・小田原市社会福祉協議会地域福祉コーディネーター研修
- ・小田原市民学校
- ・横浜市港南区地域福祉計画策定委員会研修
- ・大和市地域包括支援センター職員研修
- ・海老名市地域包括支援センター職員研修
- ・横浜市保土ヶ谷区上菅田町・川島町地域福祉計画推進研修
- ・保土ヶ谷区ヤングケラー支援推進研修
- ・湯河原町市民向け介護予防研修
- ・大和市社会福祉協議会広報力アップ研修
- ・大和市上草柳地区・中央地区地域福祉保健計画推進研修

■アドバイザー

- ・相模原市藤野町地域ケア会議アドバイザー
- ・横浜市中区地域活動交流 Co 連絡会アドバイザー
- ・横浜市区地域活動交流 CO 連絡会アドバイザー

■役員等

- ・神奈川県社会福祉審議会委員 2014 年～現在
- ・神奈川県地域福祉保健計画策定推進員 2017 年～現在
- ・社会福祉法人横浜YMCA 福祉会評議委員 2018 年～現在
- ・ヨコハマアートサイト選考委員 2023 年～現在